

# 連載 防災マニュアルは心の中に!

今回は、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の著書「**稲むらの火**」の主人公濱口梧陵（五兵衛）さんの偉業「**住民百世の安堵を図れ**」から「**惑わされない予防保全活動**」を考えます。

「稲むらの火」というのは、1854(安政元年)に発生した**安政南海地震**の時の実話をもとに生み出された世界的にも有名になった津波防災のお話です。

## 【「稲むらの火」のプロローグ】

舞台は和歌山県有田郡広川村（醤油発祥の地）、主人公の五兵衛は実在の人物で、モデルとなったのは、紀州（和歌山）、総州（千葉銚子）、江戸で代々手広く醤油製造業を営む濱口家（現ヤマサ醤油）七代目当主の濱口梧陵。

## 【「稲むらの火」のあらすじ】

沿岸の高台に住んでいた庄屋の五兵衛は大きく長い地震（安政南海地震）が収まった後に、海水が沖に引き、海岸に広い砂浜や岩底が現れたことから、津波の襲来を察知した。

村では、地震の後片付けや豊年を祝う宵祭りの準備に気をとられ、誰も津波の前兆に気付いていなかった。そこで五兵衛は家の若者たちに命じ、収穫したばかりの自分の田のすべての稲むらに火をつけた。すでに日没の状況で、あたりは薄暗く、稲むらの火は天を焦がした。庄屋さんの家の方角に上がった火の手を見た多くの村人が、庄屋さんが火事だと考え、火を消そうと大声を出しながら、みんなで高台に登った、その直後に大津波が村を襲った。その時村人は、五兵衛の稲むらの火に救われたことを知ったのです。

## 【「稲むらの火」からの教訓】

五兵衛が迷わず、短時間で「津波の襲来」を予測できたのは、先祖代々受け継がれた「大きな地震の後には津波が来る」という言葉が、しっかりと理解され心の中に刻み込まれていたからです。先祖代々受け継がれた「**継続した知識**」が多くの人の命を救うことになったのです。この「**継続した知識**」の礎となったものは、過去に地震後の津波で多くの人が命を落としたことを無駄にせず、受け継ぎ伝え続けた「**教訓**」が役に立ったということです。

## 【「稲むらの火」からの考察】

①**地震や津波に関する知識が身を守る**  
単なる「地震が起きると、津波が来ることを知っていた」というものではありません。洞察力、想像力、決断力から、地震後の津波発生の予知、津波前兆の察知。そして、直後の被災想定や被災シナリオをイメージする能力「**地震が起きると津波が来ることを理解していたこと**」が多くの村人の命を救ったのです。



## ②リーダーの判断と決断、迷わず行動

五兵衛が津波を目視する前に「**大地震＝津波襲来**」を判断。この緊急事態を村人に伝える時間も手段もない。うかつに半鐘を鳴らせば、村人は混乱するだけと判断し、大切な稲むらに火を付ける決断と、大火にすることで避難路の照明確保と誘導灯の機能も合わせて持たせた行動が、生死を分けたといえます。

## ③人間愛と道徳観

最も大切なものは「大切な人の命」と考え、「**大切な人の命を守るには、損失は覚悟の上**」という崇高な精神は、五兵衛の人格と品行、そして日常の村民との付き合いの深さを感じます。

## ④日頃からの人間関係の大切さ

災害時は「助け合いの精神（共助）」が重要です。もし村人との関係が普段からそんなに深くなく、悪かったとしたら、五兵衛は大切な稲むらを燃やすという犠牲を払わなかったのではないのでしょうか。また、五兵衛が村人の年貢をちょろまかすような悪徳庄屋であったとしたら、村人も庄屋さんの家の火事を消そうと急いで高台には登らなかったのではないのでしょうか。一時の見せかけだけの正義面や似非共助では、人の命は救えないことが判ります。

## 【「稲むらの火」からの結果】

災害時の短期的な行動だけではなく、長期的な「命の尊さ、大切さ」を継続し受け継いだ「**伝承**」が、次の災害で命を落とす人を少なくできた結果であり、そこに至るには日常の生活の中で地域の人と善意の心でコミュニケーションをとり、自分勝手な悪がしこさもズルイこともせず、村人と共に歩んだ結果が「**多くの人の命を救えた**」ということです。

また、私財を投げ打って次の災害対策「**津波堤防建設**」という防災行動は、津波堤防建設で生み出す雇用で地域から人口流出歯止めと、地域住民の郷土愛向上を図る「**津波が襲来するこんな町だとしても、このまちに住み続けたい**」と意識づけた「**自分のまちを好きになろう計画**」が何百年という年月を経過した今日にも根付く壮大なプロジェクトとして成功しています。

## 【「惑わされない予防保全活動」を行うには？】

短期的に終わるような行動や活動ではなく、梧陵さんの偉業「**住民百世の安堵を図れ**」という、根気強く長期的な行動計画と活動指針が必要となります。その為にも、防災や災害対応の専門知識の習得、正しい判断力の向上、チーム力の拡大など、まちづくりデザインとして構築しなければなりません。

私たちのまちは「**次の世代から預かっている**」という意識を持つことが大切です。今よりもより良くして次の世代に受け渡すことが「**本当のまちづくり**」ではないでしょうか！  
今回は「まちづくり」

